

中部地方整備局のバリアフリーの取り組み

令和7年 7月29日



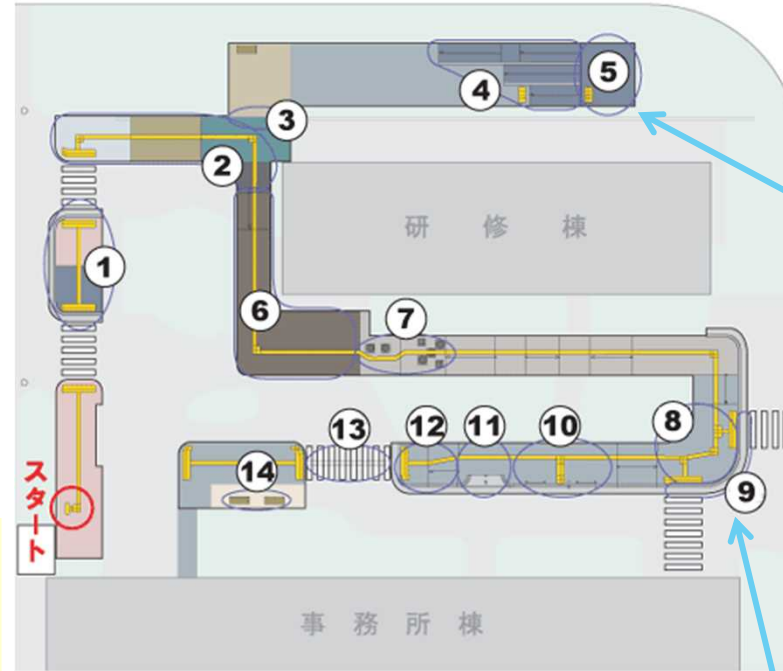
国土交通省 中部地方整備局

中部技術事務所構内には、バリアフリー体験歩道施設があり、開庁日の午前10時から12時まで、および午後2時から4時まで、体験参加の受付をしています（利用申込書の提出による事前申込みが必要です）。

中部技術事務所HP バリアフリー歩道体験【<https://www.cbr.mlit.go.jp/chugi/barrierfree/index.html>】

バリアフリー体験施設 14種類

- ①透水性舗装
- ②誘導ブロックと舗装面の輝度比
- ③グレーチング(側溝のふた)
- ④スロープ(坂路:5・8・12%)
- ⑤車いすの回転スペース
- ⑥ガタツキの少ないブロック舗装
- ⑦誘導ブロックとマンホール
- ⑧交差点付近の誘導ブロック
- ⑨歩道と車道の段差(0・1・2・3cm)
- ⑩バス停
- ⑪車両乗り入れ部
- ⑫斜めの誘導ブロック
- ⑬エスコートゾーン
- ⑭ユニバーサルデザインベンチ



車いす体験

車いすに乗り、坂や段差を体験します

④スロープ(坂路:5・8・12%)走行体験

縦断勾配5%(1m進むと5cm上がる)、8%(1m進むと8cm上がる)、12%(1m進むと12cm上がる)の坂を車いすで上り下りします。



出来る限り介助者に押してもらうことなく、自分の力だけで上ってもらいます。

3cmの段差は勢いだけでは上がりません。実際に車いすで生活している職員からコツを教えてもらっています。

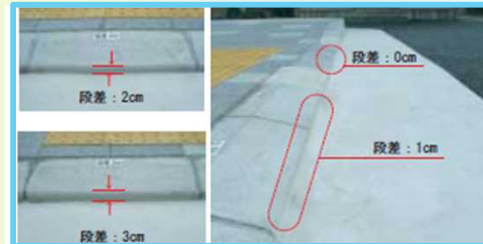


ブロックの上に自転車を置き、誘導ブロック上の障害物が視覚障がい者にとってどれほど邪魔なものか体験します。



⑨段差(0・1・2・3cm)走行体験

歩車道段差0cm、1cm、2cm、3cmを体験します。(白杖・車いすとも)



視覚障がい者体験

目隠しや目を閉じた状態で介助者と誘導ブロックの上を白杖を使って歩きます。

歩道をまっすぐ歩くだけでなく、交差点や分岐、高さの違う歩車道の段差など、さまざまな体験をします。

<令和6年度における体験実績>

中学生、自治体の方など、計100名の方に体験していただきました。多くの方に障がい者への理解、バリアフリーへの意識向上となる貴重な体験となったとの感想をいただきました。



- R1 に新たに追加指定された「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」に基づく特定道路のバリアフリー化に取り組んでいる
- 管内（4 県）の特定道路約18kmのうち約17kmが整備済みであり、残る区間の整備を推進する

整備予定区間 三重県伊勢市 国道23号宇治浦田町交差点～宇治今在家町（約700m）

伊勢神宮等の観光施設が集積し多くの観光客が訪れる地域であることから、伊勢市交通バリアフリー基本構想で五十鈴川駅周辺地区として重点整備地区に位置付けられており、バリアフリー化整備が必要とされている地域

整備前の状況

- 視覚障がい者誘導ブロック等が未整備
- 歩道内に電柱が占用
- 伊勢南電線共同溝事業と合わせて整備を推進



【宇治中之切町付近（下り線側）】

整備後のイメージ

- 視覚障がい者誘導ブロックを整備
- 車いす等の身体障がい者や高齢者が通行しやすい歩道空間を整備



【伊勢市楠部町付近（上り線側）】

- 2026年に愛知県で開催が予定されているアジア競技大会の競技会場までのアクセスルートについて、バリアフリー化の推進を図っている。
- Aichi-Nagoya2026アクセシビリティ・ガイドラインを可能な範囲で満たすレベルの整備を行っていく。

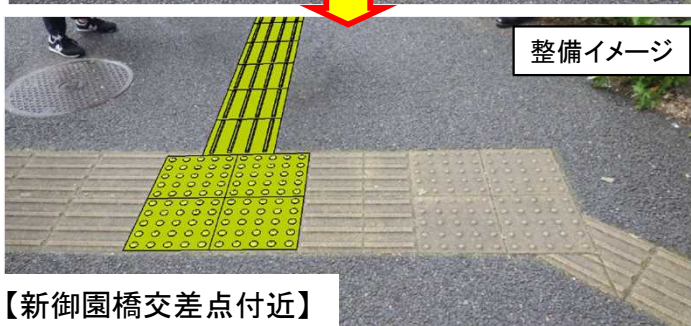
対策事例

名古屋市営地下鉄丸の内駅出口～公館東西第3号線終点部(約500m)

陸上競技(競歩)が行われる市役所周辺コースの西側に設置する観客入口までのアクセスルートを対象に、連続的に視覚障がい者誘導用ブロックを設置し、合わせてルート内の段差の解消を実施する。

視覚障がい者誘導用ブロックの設置

- アクセスルート間に視覚障がい者誘導用ブロックを整備することにより、視覚障がい者が安全に歩くことが可能。



整備イメージ

【新御園橋交差点付近】

ルート内の段差の解消

- 車いす等の身体障がい者や高齢者の通行の安全性向上。



段差 約50mm

【新御園橋交差点付近】